第52回シニア県展 審査員講評

【日本画の部】

出品者それぞれが自分が表現したい絵画世界のテーマ、モチーフを それぞれの感性でとらえ、構図、配色、マチエールなどに工夫が見ら れ充実した展示となりました。

特に日本画の絵具の扱い方に面白さを感じました。参考出品の高谷宣孝さんの作品は作者の表現力の豊かさを感じる秀作品です。

<最優秀賞> 石水 俊雄「春待つ裏庭」

グレーを基調とした色調が美しく、独自の空間が表現されています。 鳥の配置、色調がバランス良く画面をまとめ、紫と茶がほど良いアク セントとなっています。

丁寧な色の重ね方が作者のモチーフに対する愛情を感じました。



【洋画の部】

よく描かれた作品が多く見ごたえのある展覧会となりました。テーマもさまざまで花や身近な風景、静物、イメージなどいろいろ工夫されている姿が伝わります。さらにより良い作品を制作する上で考えていただきたいことは先ず色相いを工夫していただきたいことが一番です。受賞作はさすがと思いますが少し軽い感じの作品が多い事が気になります。第二に描き込みの問題です。上手、下手以上に描き込まれた作品は見る人に感動を与えます。

<最優秀賞> 立 征「南天Ⅱ」

日常よく見かける南天を観察し、色彩の配置(赤と緑)を美しく構成した魅力ある作品です。色の強弱や明るさもよく考えて南天をとりまく一隅の空気を感じ心ひかれる作品となりました。



【書の部】

出品数が最小で恥ずかしい限りである。一層の出品を願いたい。

それでも出品された作品には充実感にあふれているのが嬉しいことである。

来期を期待したい。

<最優秀賞> 吉村 千恵子「朱熹「偶成」」

小篆で朱熹の詩をどの文字どの画もゆるがせにせず書き上げて力強さのある力作である。

落款の入れ方に一工夫を要する。



【工芸の部】

今回は工芸と手芸が統合されて作品の多様性が出て来ました。また、 陶芸作品に秀作が多く出品され、工芸全体のレベルを維持されてい ました。

壁面のタペストリーは技術的にも高く評価できるものがあったが、 規格外となっており残念です。

さらに佳作の作品にも新しい感性を表現されたものもあり、さらに 発展することを楽しみにしています。

<最優秀賞> 小山 正「志野・織部「は一い、お茶」」

力強い造形で志野・織部の釉薬の妙味がいかんなく発揮されています。また「用」の可能性を追求し、生活の芸術化をはかり創作の 喜びが伝わってきます。



【写真の部】

今年は会場の都合上、応募は一人一点となり少なくなりましたものの、多岐に亘る分野の作品品位と 対面することができました。

写真は一秒の一欠片の静止画で、実体に意味を与える難しさがあります。

長年培われたセンスを武器に、洞察力・閃きなど感性感度に傾注され、カメラをマイウェポンとし豊かな潤いある日常を過ごされますことを願って已みません。

<最優秀賞> 渡 秀人「虚実」

洋書がずらりと並ぶ大きな図書館の一面。天井が ガラス張りか鏡面なのか虚像と実像が上下に並ぶ不 思議で印象的な映像である。力強く見る者の心を揺 さぶる作品にうまく纏めている。2名の人物の配置 も含めてすばらしい作品である。

